

平成28年度 国立大学法人九州大学入札監視委員会定例会議 議事概要

開催日及び場所	平成28年11月2日(水) 九州大学パブリック2号館1階 会議室	
委員	委員長 新関 輝夫(藤井・梅田法律事務所) 委員 日下 健太(日下健太公認会計士税理士事務所) 委員 永友 清司(九州電力株式会社)	
審議対象期間	九州大学、福岡教育大学、九州工業大学 ・平成27年7月～平成28年6月	
抽出案件(合計)	8件	(備考)
工事(小計)	7件	今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。 9月7日の入札監視委員会(予備会議)にて委員より抽出された案件について個別審議を行った。 その際、説明資料に基づき各発注機関の担当者から説明を行い、質問等への回答を行った。
一般競争(政府調達協定対象工事)	2件	
一般競争(政府調達協定対象工事を除く)	4件	
公募型指名及び工事希望型競争	0件	
通常指名競争	0件	
随意契約	1件	
設計・コンサルティング業務	1件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

質 問	回 答
<p>九州大学</p> <p>(1)建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について</p> <p>資料1：総括表(建設工事) (平成27年7月～平成28年6月契約分)</p> <p>・特になし。</p> <p>資料2：総括表(設計・コンサルティング業務) (平成27年7月～平成28年6月契約分)</p> <p>・特になし。</p> <p>資料3：指名停止一覧表について (平成27年7月～平成28年6月契約分)</p> <p>・特になし。</p> <p>(2)予備会議において抽出された建設工事及び設計・コンサルティング業務の審議について</p> <p>資料4：(伊都)理系図書館改修電気設備工事【随意契約】</p> <p>・最初の入札公告では9者の応募だったが、これ以上交渉の余地がないということだったのか。また実績のあるところに見積書の提出を要請したということだが、何者くらいか。</p> <p>・今回見積り合わせに応じた企業は入札には応募しなかったということだが、予備会議での対象工事一覧で、同じような時期・内容の他の入札に応募し、落札者となったものがあるのだが、何か違いがあるのか。</p> <p>・購入資材で例えば、予定価格が大きなものは大手企業だから安価に購入でき、予定価格が小さなものは中小企業だから高くなる等規模で査定率を変えているのか。</p> <p>・改修の場合、設計は新たに行うのか、それとも昔の図面で行うのか。</p> <p>・かなり予定価格との乖離があるので、資材価格だけ差異と違う要素があるのでは。</p> <p>・見積り合わせに応じた企業は、なぜ入札に応募しなかったのか。</p>	<p>・そうである。3者に依頼したうち、1者が見積書の提出に応じてくれたものであり、他の2者は「配置予定技術者の確保が出来ない」等により不可能だということであった。</p> <p>・今回の契約金額は5千万円程である。同時期・同等内容の工事の契約金額は4億円程であり規模が違うことが要因ではないかと思われる。</p> <p>・資材価格を工事の規模で査定率の変更はしていない。資材価格が工事規模でどれくらい変動があるのか判断出来ない。変更があるとする「新築」と「改修」では諸経費率が変わる。</p> <p>・新たに改修設計を行っている。</p> <p>・この建物は新しいものであるため、照明器具等再利用するものが多くあった。そのため、その見積もり等の違いによるものと考えられる。また、諸経費率においても大学は公表されている率を採用しているが、業者は公表以外の経費率のため乖離があったと思われる。</p> <p>・同じ伊都キャンパスで他の工事を行っており、応募時はそれ以上の工事を取る意思がなかったと思われ、入札に応募はしなかったものと思慮される。</p>

質 問	回 答
<p>資料5 : (馬出)百年講堂屋上防水改修工事【一般競争入札(最低価格落札方式)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定価格に対して、入札に応募した企業全てが下回っているが、どう分析しているか。また一番影響のあった材料は。 ・ 使用する材料や工法についてはどのようになっているのか。(施工する企業が決めるのか大学が決めるのか) <p>資料6 : (伊都)国際化拠点図書館(Ⅱ期)新営工事(再公告)【総合評価落札方式(標準型)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当初の入札と再公告の分で予定価格が変更となっているが、どのような分が変わったのか。工事の内容の見直しがあったのか。 ・ 図書館の工事ということで、特殊性があったから1者の応札となったのか。また、こういうⅡ期工事の場合Ⅰ期工事と同じ企業となることが多いのか。 ・ 入札説明書を交付した企業が「配置予定技術者」の確保が出来ないということだったが、その理由は他の工事でも多いが、何か原因があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物価資料や専門企業による参考見積書を査定し、予定価格を決定したのだが、結果的には全ての企業が予定価格を下回った。そのため、今後は査定率の見直しを行うことにしている。今回一番影響のあった材料は防水材料であった。 ・ 設計図に工法や使用材料の標準仕様書があるので、それを基に入札に応募する企業は入札金額を決めている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定価格と入札内訳書で価格の査定率に差異があったため見直した。なお、工事内容は見直しを行っていない。 ・ 今回は図書館のⅡ期工事となるため、Ⅰ期工事との兼ね合い等があり1者応札になったのではないと思われる。しかしながら、Ⅱ期工事であっても同じ電気設備工事では別の企業が落札しており、必ずしも同じ企業となる訳ではない。以前は「随意契約」で行うことが出来る案件であったが、入札の公平性の観点から一般競争入札となった。今回は構造的には一体のものであるため、多少他の企業が応札しづらかったのかも知れない。 ・ 「配置予定技術者」の確保が出来ないのは九州大学だけでなく、他の国や県、市町村の工事との関係もあったのかと思われる。「配置予定技術者」を専任で求める工事は、他の工事と兼任が出来ないため、企業にとっては、工事条件に「配置予定技術者」がどれだけいるかというのは入札する際の大切な要素である。
<p>資料7 : (伊都)総合教育研究棟(人文社会科学系)新営機械設備(空調)工事【総合評価落札方式(標準)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低廉となった理由として、国立大学法人九州大学契約事務取扱要領第10条第2項第2号「入札に付した工事又は製造その他の請負に充てる資材について、入札者が他の工事又は製造に必要な資材と併せて購入することによりその価格が低廉となること」ということであったが、どれくらい低廉となったのか。 ・ 資材購入の価格が低廉となり、およそ83%が低入札業者となったのは、時期的なものであったりするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に換気設備、自動制御設備、諸経費が予定価格より低くなっており、換気設備については予定価格より1億5千万円程低廉となっており、率にして61%程度、自動制御設備については、予定価格より2千3百万程低廉となっており、率にして73%、諸経費については、予定価格より1億円程低廉となっており、率にして55%である。合計で、2億7千万程度低廉となった。 ・ 時期的なものというよりは、他の工事と併せて購入することにより、低廉となったものである。
<p>資料8 : (伊都)理学部圃場研究施設新営その他工事【一般競争入札(最低価格落札方式)】</p>	

質 問	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震の影響があつて、配置予定技術者の確保が出来なかったことも競争参加資格認定7者のうち6者が辞退した理由ということだったが、競争参加資格は7者認定していたのでは。 ・圃場にある研究施設であるということで、特殊性は。 ・今後、「同種工事の施工実績」、「建物種別の設定を緩和」を検討するとあるが、内容は。 ・入札を6回行っているが、何回くらい行うのか。1者だから様子を見ながら入札価格を下げているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の工事はプレハブであり、熊本地震の仮設住宅等の需要が増え、プレハブ関係に強い企業が辞退したものである。競争参加資格を認定していた企業の中にはゼネコンもいるが、下請としてプレハブ関係に強い業者が入るため、その点でも熊本地震の影響があつたのかと思われる。その後の入札でもプレハブ関係の工事については熊本地震の影響があつて応札者が少ないのが現状である。 ・特に特殊性はない。 ・今後、「学校又は公共施設」を他の用途でも良しとしたり、施工実績としての建物面積の緩和等を検討していく。 ・一般的には2回程度だが、今回は6回行った。電子入札対象のものであるため、応札企業数は分らないが、前の入札の最低価格は通知されるため、そこを確認しながら入札を行っているのかと思われる。
<p>資料9 : (箱崎)旧工学部2号館等跡地土壤汚染状況調査業務【一般競争入札(最低価格落札方式)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壤汚染の分析手順等は仕様指定しているのか。 ・土壤汚染調査について、予定価格よりも応札金額が低いのは、市場が大きくなってきたとか分析の仕方が習熟してきたとか、良い分析機械が出てきたとかあるのか。 ・これほど応札価格に差がある理由は。また、今後の対策は。 ・外注先はわかっているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土壤汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドラインというものがあり、サンプルの取り方・分析方法等の細かい記載があるのでそれに基づき調査・分析を行うようにしている。 ・土壤汚染調査業務を行っている企業は多いので、多くの企業が応札してくる。競争原理により安価な応札となっている。また、分析費等は価格の安い企業へ外注しているのだと思われる。 ・多くの企業との競争のため、応札価格に差がでているものと思われる。今後は、見積書の査定率を見直していく。土壤汚染調査は特殊なものであり、また、九州大学としては最初の調査でもあり、これらを参考に見直しを行っていく。 ・入札まではわからないが、ガイドラインに記載のあるところでないとは分析等は出来ないので、落札者が決まった後の打合せを行う段階で判明する。
<p>福岡教育大学 (1)建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について</p> <p>資料1 : 総括表(建設工事) (平成27年7月～平成28年6月契約分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 <p>資料2 : 総括表(設計・コンサルティング業務) (平成27年7月～平成28年6月契約分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	

質 問	回 答
<p>資料3：指名停止一覧表について (平成27年7月～平成28年6月契約分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 <p>(2)予備会議において抽出された建設工事及び設計・コンサルティング業務の審議について</p> <p>資料13：(赤間他)美術・書道教棟他耐震改修その他工事【一般競争入札(総合評価落札方式)(実績評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所が「赤間」と「西公園」ということで、分かれているのだが、一式工事で行うのが合理的なのか。 ・理由書に該当したものは、1者入札であって、低入札業者の割合が80%以上の事業というものであるが。 ・3者が辞退となった理由は。 ・入札公告や入札を行った時期はいつか。その時期は多いのか。 ・同種工事の判断はどこで行うのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工種でまとめて金額が高くなったほうが、諸経費が安くなる。場所で分けて別工事として発注すると配置予定技術者も複数必要となるため、諸経費が高くなる。まとめて発注するのは工種が同じ場合であり、建築、電気、機械等工種が異なる場合は別工事となる。 ・4者競争参加資格を認定していたうち3者が辞退となり、結果的に応札者が1者となった。しかもそれが低入札となったものなので、あまり例がないと考えている。 ・配置予定技術者が他の工事を落札した結果、技術者がいなくなり辞退したものである。随時入札が行われているため、先に落札した場合は、配置予定技術者の関係から次の工事は辞退となる。早期発注を行いたいのは配置予定技術者の関係があるためである。 ・6月23日に入札公告、入札を7月24日に行った。だいたい4月から設計・積算を始めてこのくらいの時期となる。 ・競争参加資格等審査委員会を開いて、審査を行っている。
<p>九州工業大学 (1)建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について</p> <p>資料1：総括表(建設工事) (平成27年7月～平成28年6月契約分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 <p>資料2：総括表(設計・コンサルティング業務) (平成27年7月～平成28年6月契約分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 <p>資料3：指名停止一覧表について (平成27年7月～平成28年6月契約分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 <p>(2)予備会議において抽出された建設工事及び設計・コンサルティング業務の審議について</p>	

質 問	回 答
<p>資料4:(飯塚)大講義棟空調設備耐震改修工事【一般競争入札(最低価格落札方式)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 落札率は何%か。 ・ 1者入札の分析は。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 98.39%である。 ・ 5月に入札公告を行ったが、不落となり、再公告を行ったものである。今回の入札公告でも、前回の参加企業4者も見込んでいたが、技術者が確保できないとの理由で1者となったものであった。5月の入札公告と、早い段階で実施した案件ではあったが、不落となった結果、7月の入札公告となり、結果1者入札となった。
<p>新関委員長より総評 (九州大学、福岡教育大学、九州工業大学3大学全体について)</p> <p>今回の委員会の総評として、応札企業が少ないことが課題であり、それに対する対応策を検討することが重要であると感じた次第である。</p> <p>各大学共、応札企業を増やすための様々な対策を実施されているが、今後はそれに対する評価を行うことが重要であると考え。仮に改善策が功を奏していないのであれば、別の方策を検討する等のさらなる検討が必要であると思慮される。</p> <p>今回は大きな瑕疵がなかったと考えている。ただし、将来瑕疵が出ないとも限らないので、引き続き改善策を検討願いたい。</p>	